



M コマンド

この章では、コマンド名が M で始まる Cisco Nexus 1000V コマンドについて説明します。

mac access-list

MAC ACL を作成するには、**mac access-list** コマンドを使用します。MAC ACL を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mac access-list *name*

no mac access-list *name*

シンタックスの説明

<i>name</i>	リスト名です。有効な値の範囲は、1 ~ 64 です。
-------------	----------------------------

デフォルト

MAC ACL は存在しません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、MAC ACL を作成する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# mac access-list a11
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show access-list</code>	アクセス リスト情報を表示します。

mac address-table aging-time

レイヤ 2 テーブルのエントリのエージング タイムを設定するには、**mac address-table aging-time** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
mac address-table aging-time seconds [vlan vlan_id]
```

```
no mac address-table aging-time [vlan vlan_id]
```

シンタックスの説明

<i>seconds</i>	レイヤ 2 の MAC テーブル エントリのエージング タイムです。指定できる範囲は 120 ～ 918000 秒です。デフォルトは 1800 秒です。0 を入力すると、エージング タイムがディセーブルになります。
<i>vlan vlan_id</i>	(任意) 変更後のエージング タイムをどの VLAN に適用するかを指定します。

デフォルト

1800 秒

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

エージング プロセスをディセーブルにするには、ゼロ (**0**) を入力します。

エージング値は、5 秒の倍数に最も近い値に丸められます。システムによって丸められた値が、ユーザが指定した (丸め処理による) 値と異なる場合、システムから情報メッセージが返されます。

このコマンドをグローバル コンフィギュレーション モードで使用するときは、コンフィギュレーションが指定されていないすべての VLAN のエージング値が変更され、個別にエージング タイムが変更されている VLAN は変更されません。VLAN パラメータを指定しないで、このコマンドの **no** 形式を使用すると、個別にエージング タイムが設定されていない VLAN だけがデフォルトにリセットされません。個別にエージング タイムが変更されている VLAN は変更されません。

このコマンドを使用して VLAN を指定すると、指定した VLAN のエージング タイムだけが変更されます。このコマンドの **no** 形式を使用するとき VLAN を指定すると、その VLAN のエージング タイムが現在のグローバル設定のエージング タイムに戻ります。エージング タイムがデフォルト値の 300 秒になるかどうかは、デバイスのグローバル設定でエージング タイムが変更されているかどうかに応じて異なります。

エージング タイムは、スイッチが最後に MAC アドレスを検出した時点からカウントされます。

例

次に、MAC アドレス テーブルのエントリがテーブル内にとどまる時間をデバイス全体で 500 秒に変更する例を示します。

```
switch(config)# mac address-table aging-time 500
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show mac address-table	MAC アドレス テーブルに関する情報を表示します。
clear mac address-table aging-time	MAC アドレスのエージング タイムに関する情報を表示します。

mac address-table static

レイヤ 2 MAC アドレス テーブルのスタティック エントリを設定するには、**mac-address-table static** コマンドを使用します。スタティック エントリを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
mac address-table static mac-address vlan vlan-id {[drop | interface {type slot/port |
port-channel number}]}
```

```
no mac address-table static {address mac_addr} {vlan vlan_id}
```

シンタックスの説明

<i>mac-address</i>	テーブルに追加する MAC アドレスを指定します。XXXX.XXXX.XXXX の形式を使用します。
vlan <i>vlan-id</i>	スタティック MAC アドレスを適用する VLAN を指定します。有効な値は 1 ~ 4094 です。
drop	指定の VLAN 内の設定済みの MAC アドレスとの間で送受信されるすべてのトラフィックをドロップします。
<i>type slot/port</i>	(任意) インターフェイスを指定します。インターフェイスのタイプ、スロット番号、およびポート番号を使用します。
port-channel <i>number</i>	(任意) インターフェイスを指定します。ポート チャンネル番号を使用します。

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

mac address-table static mac-address vlan vlan-id drop コマンドはマルチキャスト MAC アドレスに対して実行できません。

出力インターフェイスには、VLAN インターフェイスおよび Switched Virtual Interface (SVI; スイッチ仮想インターフェイス) は指定できません。

no 形式を使用すると、指定したエントリ情報の組み合わせに該当するエントリが削除されます。

例 次に、スタティック エントリを MAC アドレス テーブルに追加する例を示します。

```
switch(config)# mac address-table static 0050.3e8d.6400 vlan 3 interface ethernet 2/1  
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show mac address-table	MAC アドレス テーブルに関する情報を表示します。

mac port access-group

ポートグループに対するアクセスコントロールをイネーブルにするには、**mac port access-group** コマンドを使用します。ポートグループに対するアクセスコントロールをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
mac port access-group name {in | out}
```

```
no mac port access-group name {in | out}
```

シンタックスの説明

name	グループ名です。有効な値の範囲は、1 ~ 64 です。
in	着信トラフィックを指定します。
out	発信トラフィックを指定します。

デフォルト

パケットに対するアクセスコントロールは指定されません。

コマンドモード

ポートプロファイルコンフィギュレーション (config-port-prof)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ポートグループに対するアクセスコントロールをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# port-profile 1
switch(config-port-prof)# mac port access-group groupOne in
switch(config-port-prof)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show mac	MAC 情報を表示します。

match (ACL)

ACL マッチング条件を定義するには、**match** コマンドを使用します。マッチング条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
match {{access-group name name} | {{[not] cos cos-list} | {{[not] dscp {dscp-list | dscp-enum}+} | {{[not] precedence {precedence-list | prec-enum}+} | {{[not] discard-class discard-class-list} | {{[not] qos-group qos-group-list} | {{[not] class-map cmap-name} | {{[not] packet length len-list} | {{[not] ip rtp port-list}}
```

```
no match {{access-group acl-name} | {{[not] cos cos-list} | {{[not] dscp {dscp-list | dscp-enum}+} | {{[not] precedence {precedence-list | prec-enum}+} | {{[not] discard-class discard-class-list} | {{[not] qos-group qos-group-list} | {{[not] class-map cmap-name} | {{[not] packet length len-list} | {{[not] ip rtp port-list}}
```

シンタックスの説明

access-group	アクセス グループを指定します。
name	ACL 名を指定します。
<i>name</i>	ACL 名です。有効な値の範囲は、1 ~ 64 です。
not	(任意) マッチ結果を反転させます。
cos	IEEE 802.1Q CoS (Class of Service) です。
<i>cos-list</i>	CoS 値のリストです。有効な値の範囲は、0 ~ 7 です。
dscp	IP (v4) および IPv6 パケットの DSCP です。
<i>dscp-list</i>	DSCP 値のリストです。
<i>dscp-enum</i>	
precedence	IP (v4) および IPv6 パケットのプレシデンスです。
<i>precedence-list</i>	プレシデンス値のリストです。
<i>prec-enum</i>	
discard-class	廃棄クラス + 廃棄クラス値のリストです。
<i>discard-class-list</i>	
qos-group	QoS グループ + QoS グループ値のリストです。
<i>qos-group-list</i>	
class-map	クラス マップ + マッチ クラス マップ名です。
<i>cmap-name</i>	
packet	パケットです。
length	IP データグラムの長さです。
<i>len-list</i>	IP パケット長のリストです。
ip	IP です。
rtp	Real Time Protocol です。
<i>port-list</i>	RTP を使用する UDP ポートのリストです。

デフォルト

なし

コマンドモード

クラス マップ コンフィギュレーション (config-cmap-qos)

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、クラス マップ マッチング条件を設定する例を示します。

```
switch(config)# class-map cl_map1
switch(config-cmap-qos)# match access-group name ac_gr1
switch(config-cmap-qos)#
```

次に、クラス マップ マッチング条件を削除する例を示します。

```
switch(config)# class-map cl_map1
switch(config-cmap-qos)# no match access-group name ac_gr1
switch(config-cmap-qos)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show class map	クラス マップ情報を表示します。

match ip (NetFlow)

NetFlow フロー レコードに対する IP マッチング条件を定義するには、**match ip** コマンドを使用します。マッチング条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
match ip {protocol | tos}
```

```
no match ip {protocol | tos}
```

シンタックスの説明

protocol	プロトコルです。
tos	サービスのタイプです。

デフォルト

なし

コマンドモード

フロー レコード コンフィギュレーション (config-flow-record)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、NetFlow フロー レコードに対する IP マッチング条件を設定してから結果を表示する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# flow record RecordTest
n1000v(config-flow-record)# match ip protocol
n1000v(config-flow-record)# show flow record
Flow record RecordTest:
  No. of users: 0
  Template ID: 0
  Fields:
    match ip protocol
    match interface input
    match interface output
    match flow direction
doc-n1000v(config-flow-record)#
```

次に、NetFlow フロー レコードに対する IP マッチング条件を削除してから結果を表示する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# flow record RecordTest
```

```
n1000v(config-flow-record)# no match ip protocol
n1000v(config-flow-record)# show flow record
Flow record RecordTest:
  No. of users: 0
  Template ID: 0
  Fields:
    match interface input
    match interface output
    match flow direction
doc-n1000v(config-flow-record)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show flow record [<i>name</i>]	NetFlow フロー レコード コンフィギュレーションを表示します。
match ipv4	NetFlow フロー レコードに対する IPv4 マッチング条件を定義します。
match transport	NetFlow フロー レコードに対するトランスポート マッチング条件を定義します。

match ipv4 (NetFlow)

NetFlow フロー レコードに対する IPv4 マッチング条件を定義するには、**match ipv4** コマンドを使用します。マッチング条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

match ipv4 {source | destination} address

no match ipv4 {source | destination} address

シンタックスの説明

source	送信元アドレスです。
destination	宛先アドレスです。
address	アドレスです。

デフォルト

なし

コマンド モード

フロー レコード コンフィギュレーション (config-flow-record)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、NetFlow フロー レコードに対する IPv4 マッチング条件を設定してから結果を表示する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# flow record RecordTest
n1000v(config-flow-record)# match ipv4 destination address
n1000v(config-flow-record)# show flow record
Flow record RecordTest:
  Description: Ipv4flow
  No. of users: 0
  Template ID: 0
  Fields:
    match ipv4 destination address
    match interface input
    match interface output
    match flow direction
    collect counter packets
n1000v(config-flow-record)#
```

次に、NetFlow フロー レコードに対する IPv4 マッチング条件を削除してから結果を表示する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# flow record RecordTest
n1000v(config-flow-record)# no match ipv4 destination address
n1000v(config-flow-record)# show flow record
Flow record RecordTest:
  No. of users: 0
  Template ID: 0
  Fields:
    match interface input
    match interface output
    match flow direction
doc-n1000v(config-flow-record)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show flow record [<i>name</i>]	NetFlow フロー レコード コンフィギュレーションを表示します。
match ip	NetFlow フロー レコードに対する IP マッチング条件を定義します。
match transport	NetFlow フロー レコードに対するトランスポート マッチング条件を定義します。

match transport (NetFlow)

NetFlow フロー レコードに対するトランスポート マッチング条件を定義するには、**match transport** コマンドを使用します。マッチング条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

match transport {destination-port | source-port}

no match transport {destination-port | source-port}

シンタックスの説明

destination-port	トランスポート宛先ポートです。
source-port	トランスポート送信元ポートです。

デフォルト

なし

コマンドモード

フロー レコード コンフィギュレーション (config-flow-record)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、NetFlow フロー レコードに対するトランスポート マッチング条件を設定してから結果を表示する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# flow record RecordTest
n1000v(config-flow-record)# match transport destination-port
n1000v(config-flow-record)# show flow record
Flow record RecordTest:
  Description: Ipv4flow
  No. of users: 0
  Template ID: 0
  Fields:
    match ipv4 destination-port
    match interface input
    match interface output
    match flow direction
    collect counter packets
n1000v(config-flow-record)#
```

次に、NetFlow フロー レコードに対するトランスポート マッチング条件を削除してから結果を表示する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# flow record RecordTest
n1000v(config-flow-record)# no match transport destination-port
n1000v(config-flow-record)# show flow record
Flow record RecordTest:
  No. of users: 0
  Template ID: 0
  Fields:
    match interface input
    match interface output
    match flow direction
doc-n1000v(config-flow-record)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show flow record [<i>name</i>]	NetFlow フロー レコード コンフィギュレーションを表示します。
match ip	NetFlow フロー レコードに対する IP マッチング条件を定義します。
match ipv4	NetFlow フロー レコードに対する IPv4 マッチング条件を定義します。

media

VLAN のメディア タイプを「イーサネット」と指定するには、**media** コマンドを使用します。タイプを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

media ethernet

no media

シンタックスの説明	ethernet 「イーサネット」というメディア タイプを指定します。
------------------	--

デフォルト	なし
--------------	----

コマンド モード	VLAN コンフィギュレーション (config-vlan)
-----------------	--------------------------------

サポートされるユーザの役割	network-admin
----------------------	---------------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例	次に、メディア タイプを設定する例を示します。 <pre>switch# configure terminal switch(config)# media ethernet switch(config)#</pre>
----------	---

関連コマンド	コマンド	説明
	show vlan	VLAN 情報を表示します。

mkdir

新しいディレクトリを作成するには、**mkdir** コマンドを使用します。

mkdir {bootflash: | debug: | volatile:}

シンタックスの説明	
bootflash:	bootflash をディレクトリ名として指定します。
debug:	debug をディレクトリ名として指定します。
volatile:	volatile をディレクトリ名として指定します。

デフォルト なし

コマンドモード EXEC

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例 次に、bootflash: ディレクトリを作成する例を示します。

```
switch# mkdir bootflash:
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
	dir	ディレクトリの内容を表示します。
	pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

module vem

VEM 上で実行するコマンドをリモートに Cisco Nexus 1000V から入力するには、**module vem** コマンドを使用します。

module vem module-number execute line [line]

シンタックスの説明

module-number	モジュール番号を指定します。指定できる範囲は 3 ~ 66 です。
execute	VEM 上で実行するコマンドを指定します。
line	VEM に送信されるコマンドの構文です。

デフォルト

なし

コマンドモード

EXEC

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、VEM ポート プロファイル コンフィギュレーションをリモートに Cisco Nexus 1000V から表示する例を示します。

```
n1000v# module vem 3 execute vemcmd show port-profile
```

次に、VEM VSD コンフィギュレーションをリモートに Cisco Nexus 1000V から表示する例を示します。

```
n1000v# module vem 3 execute vemcmd show vsd
ID  Def_Act  ILTL  OLTL  NMLTL  State  Member LTLs
 1  DROP    48    49    4      ENA    54,52,55,53
 2  FRWD    50    51    0      ENA

vsim-cp# module vem 3 execute vemcmd show vsd ports
LTL  IfIndex  VSD_ID  VSD_PORT_TYPE
 48  1b020000  1      INSIDE
 49  1b020010  1      OUTSIDE
 50  1b020020  2      INSIDE
 51  1b020030  2      OUTSIDE
 52  1b020040  1      REGULAR
 53  1b020050  1      REGULAR
 54  1b020060  1      REGULAR
 55  1b020070  1      REGULAR
n1000v#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show module vem</code>	VEM (Virtual Ethernet Module) の情報を表示します。

monitor session

モニタ コンフィギュレーション モードを開始するには、**monitor session** コマンドを使用します。このモードでは、ポート間トラフィック分析のためのイーサネット Switched Port Analyzer (SPAN) セッションを設定します。

SPAN セッションのモニタリングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

monitor session {*session-number* [**shut** | **type erspan-source**] | **all shut**}

no monitor session {*session-number* [**shut** | **type erspan-source**] | **all shut**}

シンタックスの説明

session-number	スイッチド ポートのモニタリングのためのセッション番号を指定します。SPAN セッションの番号は 1 ~ 64 です。
shut	(任意) 選択したセッションを終了します。
type	(任意) セッションのタイプを指定します。
erspan-source	(任意) ERSPAN 送信元セッションを作成します。
all	スイッチド ポートのモニタリングのためのすべてのセッションを指定します。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、モニタ コンフィギュレーション モードを開始してポート間トラフィック分析のための SPAN セッション番号 2 を設定する例を示します。

```
switch# configuration t
switch(config)# monitor session 2
switch(config-monitor)#
```

次に、ポート間トラフィック分析のための SPAN セッション 2 のコンフィギュレーションを削除する例を示します。

```
switch# configuration t
switch(config)# no monitor session 2
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show monitor	イーサネットの SPAN 情報を表示します。

move

ファイルのあるディレクトリから別のディレクトリに移動するには、**move** コマンドを使用します。

```
move [filesystem:[//module/][directory/] | directory/]source-filename
     {{filesystem:[//module/][directory/] | directory/}[destination-filename] |
     target-filename}
```

シンタックスの説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前を指定します。大文字と小文字が区別されます。
<i>//module/</i>	(任意) スーパーバイザ モジュールの ID を指定します。有効な値は sup-active 、 sup-local 、 sup-remote 、または sup-standby です。ID では、大文字と小文字が区別されます。
<i>directory/</i>	(任意) ディレクトリの名前を指定します。大文字と小文字が区別されます。
<i>source-filename</i>	移動するファイルの名前を指定します。大文字と小文字が区別されます。
<i>destination-filename</i>	(任意) 移動先ファイルの名前を指定します。この名前は 64 文字以下の英数字で、大文字と小文字が区別されます。

デフォルト

デフォルトの移動先ファイル名は、移動元のファイル名と同じです。

コマンド モード

任意

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

copy コマンドを使用すると、ファイルのコピーを作成できます。



ヒント

同じディレクトリ内でファイルを移動することで、ファイル名を変更できます。

例

次に、別のディレクトリにファイルを移動する例を示します。

```
switch# move file1 my_files:file2
```

次に、別のファイル システムにファイルを移動する例を示します。

```
switch# move file1 slot0:
```

次に、別のスーパーバイザ モジュールにファイルを移動する例を示します。

```
switch# move file1 bootflash://sup-remote/file1.bak
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>cd</code>	現在の作業ディレクトリを変更します。
<code>copy</code>	ファイルのコピーを作成します。
<code>dir</code>	ディレクトリの内容を表示します。
<code>pwd</code>	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

mtu

インターフェイスの Maximum Transmission Unit (MTU; 最大伝送ユニット) を設定するには、**mtu** コマンドを使用します。設定済みの MTU サイズをインターフェイスから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mtu size

no mtu size

シンタックスの説明

size MTU のサイズを指定します。指定できる範囲は 1500 ~ 9000 です。

デフォルト

1500 バイト

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、MTU サイズを 2000 に設定する方法を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# configure interface port-channel 2
switch(config-if)# mtu 2000
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	インターフェイスに関する情報を表示します。この中に MTU サイズが含まれています。

